

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	<b>事務事業名</b> 登別市老人クラブ連合会補助金
-------------------	-----------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	3	誰もが安心して暮らせるまちをつくる
施策	2	高齢者福祉の確立
小分類	1	長寿社会の基盤づくり
主要な施策	1	高齢者の生きがいづくりの場と機会の充実
事務事業番号	003	事務事業コード 13211003 事業開始年度 昭和 5 4 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	登別市老人クラブ連合会
------	------	------------	-------------

部 名	保健福祉部	グループ名	社会福祉 G
-----	-------	-------	--------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記載してください) 登別市老人クラブ連合会の行う事業推進支援。
手段 (事業の内容・活動)	(目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください) 老人クラブ連合会が行う事業を推進するため、補助金を交付する。 主な事業 ・高齢者相互支援事業 ・社会奉仕活動の推進 ・交通安全、防災対策運動の推進 ・女性リーダーの育成推進
成果	(事務事業の実施成果を具体的に記載してください) 高齢者福祉活動の中核的な役割を果たす。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください) 老人福祉法

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	各種事業参加人数(年度ベース)	人	目標値	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
			実績値	5,100	/	/	/	/
			目標値					
			実績値		/	/	/	/

## 事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称 老人クラブ運営事業補助金	千円	207	207	207	207	207	621
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	793	793	793	793	793	2,379
合 計				1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	3,000
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	765	787			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		765	787			

## 担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 高齢者人口の増加に伴い、自ら生きがい活動を行う機会の増加と地域老人との交流が必要となっている。また、活動の指導者養成が急務となっており、その中核となる老人クラブ連合会に補助することは妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 老人クラブ連合会を支援することにより、高齢者の生きがいづくりと単位老人クラブの交流が促進され、高齢者相互の連携が図られる。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？向上させることができない理由は何ですか？ 老人クラブ全体で会員の減少が見られるなか、事業の見直しなどにより魅力ある活動を推進する。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？削減できない理由は何ですか？ 老人クラブ連合会の補助金については、H18年度に見直しを行っており、削減は難しい。

## 担当グループによる評価

<b>維持</b>	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	高齢者人口の増加に伴い、自ら生きがい活動を行う機会の増加と地域老人との交流が必要となっている。また、活動の指導者養成が急務となっており、その中核をなす老人クラブ連合会に対して支援する必要がある。
-----------	----------------------	---

## 総合的な評価（当該事務事業の方向性）

<b>維持</b>	備考
-----------	----

### 評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）